

令和5年産水稻育苗講習会資料

令和5年4月25、26日
JAたかさき
西部農業事務所普及指導課

ポイントを押さえた管理を！！

- ・ 種子消毒の徹底
- ・ 出芽～育苗期の温度管理
- ・ 病害虫防除

1 育苗管理

資材の消毒

- ・ 瞬時浸漬するか、薬液をジョウロで散布する
- ・ 資材は、消毒後半日ほど風乾してから使用する

資材消毒剤 例	イチバン	対象:育苗箱
---------	------	--------

種子の比重選

比重液	水量	硫安
うるち	10リットル	2.9kg
もち	10リットル	1.9kg

- ・ 充実した種籾の選別を行う
- ・ 比重選後は十分な水洗い

種子消毒

- ・ 種籾1kgあたり薬液は2L用意する
- ・ 浸漬中に1～2回かく拌する
- ・ 種子消毒後、水洗いしないで浸種を行う

薬剤例	テクリードCフロアブル ヘルシードTフロアブル	いもち病・ばか苗病・もみ枯細菌病等
	スミチオン乳剤	イネシンガレセンチュウ

浸種催芽

- ※十分に吸水させて、発芽のそろいをよくする
- ・ 水量は種籾量の2倍以上とし、3日目以降は1～2日に1回、水を静かに交換する(停滞水中で行う)
- ・ **ハトムネ状態**になるまでの**積算温度は約100℃**が目安
平均水温25℃で4日、20℃で5日程度
- ・ もみ枯細菌病等の発生を防ぐため、水温は**28℃未満**とする



芽が1mm
伸びた状態

は種

※軟弱徒長や苗立枯病の原因となるため厚播きを避ける

	箱あたりは種量(乾籾)	育苗日数	苗令(完全葉)	草丈
中苗	80～100g	25～30日	3.5～4.5枚	15～20cm
稚苗	160～180g	20～22日	2.0～2.5枚	10～15cm

床土かん水

は種前に十分かん水：1箱あたり1～1.5リットル

床土消毒

薬剤
例

ダコレート
水和剤

苗立枯病(リゾープス菌、トリコデルマ菌、フザリウム菌)
いもち病(苗いもち)

覆土

ムレ防止のため、覆土後のかん水はしない

苗立枯病症状



リゾープス菌



ピシウム菌

病原菌名	特徴	発生要因
フザリウム菌	もみの周りに白いカビ	過乾・過湿 低温・傷もみ
リゾープス菌	出芽時に箱全体に白いカビが発生、その後灰色になる	出芽時の高温・多湿、 緑化期以降の低温
トリコデルマ菌	地表面・もみの周りに白～青緑色のカビ	高温・乾燥
ピシウム菌	地際部が水浸状に腐敗し、急にしおれて枯死、カビは見られない	低温・過湿 河川等からのかん水



もみ枯細菌病

出芽

温度管理に注意！！ 高温障害、病害対策

積み重ね 出芽

・湿害や苗立枯病予防のため、パレットや角材等の上によく水を切ってから積み重ねる
(15段程度)

・最上段には空箱を乗せ、ビニールシートやムシロで保温する
※病害発生防止のため、28℃を超えないように、日陰等に置く
・4、5日程度積んで、土から芽が0.5～1 cm程度出たら広げる

緑化期

【出芽後3日間】

- ・白化現象防止のため、寒冷紗等で覆い、強い光と寒気に当てない
- ・気温が低いときは、保温シート等を活用する
- ・かん水は、湿害防止のため、ジョウロ等で上から行き、苗床に水がたまらないように注意する

硬化期

【緑化後(出芽後4～5日以降)】

- ・緑化後は光を十分に当て、ずんぐりとした苗にする
- ・苗の栽培適温：20～25℃程度(日中30℃以下、夜間15℃以上)

【ビニールプール育苗のポイント】

- ・水深2 cm程度に水を入れ、1度水を入れたらその水がなくなっ
てから半日～1日後(天候によって加減)に水を入れ、根腐れを防ぐ

苗の追肥

1箱あたり 水1リットル 硫安5 g

- ・育苗後半、肥切れがみられたら実施
- ・散布後は、茎葉に付着した硫安を水で軽く洗い流す

2 本田の準備

土づくり

- ・作土深15cm～18cm(根域の確保)
- ・土壌診断に基づく土壌改良(バランスのよい土づくり)
- ・ケイ酸資材の投入(根張り向上による活力維持)

目標 数値	pH	有効態リン酸	交換性カリ
	6.0～6.5	10～30mg/100g乾土	25mg/100g乾土以上

土 壌 改 良 剤 の 施 肥	ケイカル	100～150 kg/10a	・水稻1作で吸収されるケイ酸の量は約160kg/10a ・吸収されたケイ酸は、イネの表皮組織を強くし、耐倒伏性や耐病害虫性を高める
	ようりん	60 kg/10a	・土壌分析に基づき、成分が足りない場合に施用する

基肥の 施肥目安

- ・地力や品種に合わせて適量を施用する。肥料の入れすぎは倒伏や病害を助長する

品種名	N:窒素分量	P:リン酸分量	K:カリ分量
コシヒカリ	3～4	9	7
ひとめぼれ	5～6	9	7
あさひの夢・ゆめまつり	6～7	8	7

3 田植え～生育初期

田植え

- ・栽植密度と植え付け本数の目安

苗の種類	播種量 g/箱	箱/10a	株数/m ²	本/株
中苗	100	20～25	18前後	4～5
稚苗	180	15～19		5～6

- ・晩生品種「ゆめまつり」「あさひの夢」の移植晩限
平坦地 6月25日 中山間地 6月中旬

田植え後 の水管理

- ・分けつの促進のため、中干しまでは浅水で管理する
- ・土中でガスの発生がある場合は、ときどき水を切って田面を露出させ、水の入れ替えを行う(ガス抜き、根腐れ防止)
- ・薬害等の発生時も数日間水を切って根の発根を促す
- ・中干しは、田面に小ヒビが入る程度行い、麦わらやその他有機物をすき込みした水田は、中干しを徹底する

カリの 中間追肥

- ・登熟歩合の向上、粒の肥大、稈質の強化、根張りをよくして倒伏防止、病害抵抗性の向上、高温登熟障害対策につながる

施肥時期	資材	施用量
出穂30～50日前	ケイ酸カリ	30kg/10a
	塩加カリ	10kg/10a

4 雑草防除

除草剤をよく効かせるために

- ・**抵抗性雑草発生防止のため、同一薬剤の連用は避け、成分の違う薬剤をローテーションする**
 - ・ほ場整備をていねいに行い、漏水を防ぐ
 - ・農薬の散布時は水口と水尻をしっかりと止め、湛水状態を保つ
 - ・農薬散布後の7日間は、落水や掛け流しをしない
 - ・移植前に農薬散布した場合も、散布後の7日間は落水しない
 - ・ジャンボ剤は、田面の凹凸やウキクサ等が多いと拡散しにくいので注意する
- ※除草剤散布後の高温(30℃前後以上)や強風で、除草剤が吸収されやすくなり、薬害が大きくなることもある

「田植え同時処理」除草剤での薬害防止について

- ・植え付け後の土の戻りが悪いほ場では、植え付け穴に除草剤が流れ込んでしまうため、田植え同時処理は行わない
- ・代かきはていねいに行い、田面を均平にする
- ・田植えはヒタヒタ水の状態で行う
- ・田植え後は、速やかに入水する(湛水深3～5cm確保)
- ・補植は極力しない

後期除草剤

- ・オモダカやクログワイ等の多年生雑草や、ヒエ等の雑草多発ほ場では、初・中期除草剤と後期除草剤の体系で防除を行う
- ・近年、発生の増えている”**ホソバヒメミソハギ**”、“**クサネム**”は、初・中期剤の効果が切れた後に発生することが多いので適切に防除を行う
- ・散布時は使用方法(湛水または落水)、使用時期(収穫前日数等)をよく確認する



ホソバヒメミソハギ



クサネム

4 病害虫防除

- ・いもち病は、常発地等発生が多いほ場では必ず適用のある箱粒剤を用いる
 - ・イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカ（ウンカ類）の防除を行う
- 「コシヒカリ」「ひとめぼれ」は、感受性品種のため防除が必要

薬剤	ルーチンアドスピノ箱粒剤	いもち病、ウンカ類、イネズグウムシ、イネトオムシ、フタヒコガ等
例	フェルテスタークル箱粒剤CU	ウンカ類、ツマグロヨコバイ、コブノメイガ、イネズグウムシ、イネトオムシ等
	エバーゴルプラス箱粒剤	いもち病、紋枯病、ウンカ類、イネズグウムシ、イネトオムシ、イネツムシ、ニカメイチュウ等

いもち病

【特徴】

- ・葉いもちの初発は、7月中旬～下旬ころ
- ・葉いもちが多く、上位葉に病斑が見られる場合は、穂いもちが発生しやすくなる

【発生しやすい条件】

- ・平均気温19～25℃、降雨頻度が高い、多湿
- ・夜間の風が弱く、朝露の乾きが遅い
- ・イネが軟弱徒長気味で葉色が濃い

【防除対策】

- ・自家採種せず、種子更新する
- ・**箱施用剤による予防**
- ・葉いもちの発生が多い場合は、追肥しない
- ・穂いもち防除は、粒剤は出穂20日前から、液剤は穂ばらみ期及び穂ぞろい期に行う



葉いもち

ばか苗病

糸状菌(カビ)によって引き起こされる病害
種子伝染する

【症状】

- ・育苗：茎葉が黄化し、細長く伸びて徒長する
- ・本田：黄化して徒長し、枯死する。株元に白～桃色の胞子が見られる。

【対策】

- ・自家採種を避け、種子を更新する
- ・種子消毒を行う
- ・育苗中に被害苗を確認したら抜き取る



育苗中の症状



本田での症状

【農薬の適正使用について】 農薬の登録内容：令和5年4月1日現在

- ・最新の情報を確認し、適用作物、使用時期、使用方法等を守って使用しましょう。
- ・農薬の使用前後には、防除器具を点検し、十分に洗浄されているか確認しましょう。
- ・農薬を使用したら記帳しましょう。・隣接したほ場へ飛散させないようにしましょう。

『徹底しよう！農業機械の転落・転倒対策』

【事故防止対策】

- ほ場周辺の危険箇所の確認・危険回避行動の実践
- 危険箇所の改善（道路端や曲がり角の草刈り、路肩の補強など）

【被害軽減対策】

- シートベルトとヘルメットの着用
- 安全フレーム付きトラクターの利用

